

35周年企画 部会活動

統計調査部のあゆみ

統計調査部 武田 昭子

統計調査部は1984年度に新設された事業部である。それ以前の様子も含め、1989年までの活動状況は首藤佳子氏（当時 星ヶ丘厚生年金病院図書室）が会誌10巻「設立15周年記念号」に、1990年から2000年までは木下久美子氏（高山赤十字病院図書室）・山崎捷子氏（淀川キリスト教病院図書室）が会誌20巻4号「創立25周年記念号」にそれぞれまとめており、統計調査部の歴史を知ることができる。

新設当時の業務内容は、首藤氏の記事によれば「重複雑誌の調査および重複雑誌目録の作成」と「年次統計調査の実施と報告書の作成」となっている。もともと年次統計調査の前身として相互貸借の件数のみを調査していたが、会員施設の継時的な状況把握の必要性があり、1981年度より「図書室に関する統計調査」と称して施設の現況や職員の動向・蔵書数や経費についても調査を行うようになった。

表1. 統計調査報告書の発行状況（2000年以降）

調査対象年度	発行年月	担当者
平成11年度	2000.10	山崎（淀キリ）
平成12年度	2002.2	山崎（淀キリ）、木下（高山赤）
平成13年度	2003.2	増田（藍野学）、山崎（淀キリ）
平成14年度	2004.2	山崎（淀キリ）、林（社神病）
平成15年度	2005.3	寺澤（関西労）
平成16年度	2006.3	小田中（国京セ）
平成17年度	2007.3	佐藤（県光風）
平成18年度	2008.1	佐藤（県光風）、林（社神病）
平成19年度	2009.2	武田（刈谷総）
平成20年度	2010.2	武田（刈谷総）
平成21年度	2011.2	武田（刈谷総）

たけだ あきこ：刈谷豊田総合病院 図書室

現在は、簡易調査と詳細調査を隔年で実施しており、簡易調査の年は「年度統計調査」のみを、詳細調査の年はそれに加えて「図書室機能調査」を行っている。近年、あらゆる場面でコンピュータ化・オンライン化が進んでいるが、病院図書館業務も例にもれず、図書管理業務のシステム化、事務作業のOA化、またオンラインジャーナルのように提供する資料の形態も多様化するなど、年々変わり続けている。そういった時流の変化に合わせて調査項目も細分化され、変更や追加が重ねられてきたが、全体としては、過去のデータと比較したり、前年度のデータを参照しながら回答しやすいよう、大幅な構成変更は避けてきている。

集計方法については、施設区分で大きく分けた上、病院は病床数でさらに分けた数値を出しており、自施設と同規模の施設の平均像を推測することができる。また、図書管理システムや電子資料などは、選択肢に具体的な商品名をあげており、自施設に導入する際の比較検討・交渉のための材料とすることもできる。

多くの病院図書館担当者が一人業務であることが、歴年の調査結果からもわかっている。日常業務に追われ、前へ前へと進むことに気持ちを置きがちになるが、時にはじっくり自館と自分の仕事に向き合い、課題分析や自己評価を行うことも必要であると考え。統計調査で出る数値は、受入数であれ、文献複写受付数であれ、「一年間自分のしてきたこと」の結晶である。年一回、統計調査に回答することで自館の現状を把握し、「一年間自分のしてきたこと」を振り返

るよい契機とお受け止めいただければ幸いです。

今後とも会員の皆様のご理解・ご協力を賜りたい。

参考文献

- 1) 首藤佳子：統計調査部のあゆみ. 病院図書室. 1989;10:62-7.
- 2) 木下久美子. 山崎捷子：統計調査部の仕事とあゆみ. 病院図書館. 2000;20(4):183.